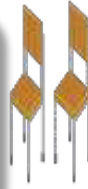




山北だより



山梨市立山梨北中学校
 令和5年3月1日(水) No.10
 校長 倉田 憲一

学校評価集計結果について

過日調査をさせていただきました、学校評価のためのアンケートについてですが、この調査をもとに職員だけでなく学校運営協議会の委員さんもお呼びし、一年間の学校の取組について振り返る「学校関係者評価委員会」についても終了いたしましたので、調査結果を皆様にもお伝えいたします。

紙面の都合で教員の結果については、グラフをカットしております。なお、以下の考察については、会議資料から掲載いたしました。教務主任が中心となり考察を加えております。考察についても、紙面の関係から省略等しております。

〈アンケートの集計について〉 学校評価作成資料として、生徒、保護者、教職員に向けてアンケート調査を実施した。本資料は、これらの結果をもとに集計し、分析したものである。％は、回答で「4」(強く思う・満足・している)と「3」(そう思う・ほぼ満足・まあまあしている)を回答した合計の割合を示している。

I 学習について

I	生徒	今年度
1	授業はわかりやすい。	95.5%
2	自分は、授業にしっかり取り組んでいる。	94.7%
3	先生たちは、生徒のことをよく考え、自分の努力や工夫したことを認めてくれる。	95.2%
4	自分から進んで家庭学習をしている。	78.0%
I	保護者	今年度
1	子どもは、授業などの準備をきちんとしている。	80.3%
2	子どもは、宿題や課題などにきちんと取り組んでいる。	80.5%
3	学校はわかりやすい授業を行っている。	74.9%
4	学校は、子どもの意欲や努力を適切・公平に評価している。	81.9%

(1)わかる授業について

生徒アンケートの「授業はわかりやすい」の回答で 95.5%、「自分は授業へしっかり取り組んでいる」の回答で 94.7%とかなり高い値となった。これは ICT の利活用が昨年度と比べかなり進んだことや、コロナ禍ではあまりできなかったペア学習や班学習の再開等によるものと考えられる。本年度の全国学力学習状況調査や県学力把握テストの結果も全国平均や県平均を上回る結果となった。

感染症予防対策を十分実施した上で、長期休業中の学習会やテスト前の補習を計画的に実施した。保護者の記述意見でも「テスト前にテスト対策の学習時間があった良かった」等の意見があった。生徒の記述のなかには「個に応じた授業の実施」「タブレットの授業をもっと増やして欲しい」という記述もあり、学習に対して意欲を感じ取ることができる。今後の授業だけでなく、さまざまな学習でのタブレット活用が進んでいく。班学習では埋もれてしまう意見も、全員が意見を入力することで考えさせる授業を展開していく。これにより、より多くの生徒が「理解できた・楽しい」と評価できる授業を目指したい。

(2)家庭学習について

家庭学習の取り組みについて課題も見られる。生徒への質問「自分から進んで家庭学習をしている」の回答が 78.0%、保護者への質問「子どもは、宿題や課題などにきちんと取り組んでいる」の回答も 80.5%という数値である。授業で高められた個の学力の維持と向上をはかるためには、各自の自主学習が大切となってくる。学

習指導要領に示される柱の 1 つは、「主体的に学習に取り組む態度」である。この指標として、「粘り強く学ぶ」「学びを調整する」とされている。家庭学習(自主学習)においてはこの力が鍵となってくる。本年度も、家庭学習の定着を目指して全学年で「自主学習ノート」に取り組んでいる。全校で帰りの会の前の 5 分間で、その日に行う自主学習の課題設定を自分で決める時間をとり、目標・課題設定して家庭学習へ取り組むことを行っている。次年度も、自主学習の取り組みの方法を検討し、家庭学習の定着を目指したい。

(3) 評価について

全教職員は、子どもの意欲や努力を適切公平に評価するように努めている。また、指導と評価の一体化を目指して改善も行っている。生徒は「先生たちは生徒のことをよく考え、自分の努力や工夫したことを認めてくれる」の回答で 95.2%と高い値である。また、保護者の「学校は子ども意欲や努力を適切・公正に評価している」の質問事項に 81.9%が良好と回答している。この数値をさらに上げるためにも、学習評価だけでなく学校生活全般にわたっての評価(生徒の良さを認めていくこと)に対する説明をより丁寧に行い、各学期の懇談時等に、生徒や保護者への説明と理解を深めていくことが必要だと考える。

Ⅱ 生活について

Ⅱ	生 徒	今年度
1	学校は楽しい。	95.6%
2	必要があるとき、先生たちは相談にのってくれる。	97.6%
3	先生たちは、いじめのない学級づくりに取り組んでいる。	98.1%
4	自分は、いじめのない学級づくりに取り組み、仲の良い友達を大切にしている。	98.8%
5	自分には、仲のよい友達がいて、休み時間など楽しく過ごしている。	97.5%
6	学園祭などの行事には、積極的に取り組んでいる。	98.1%
7	自分は、学級の係(清掃や給食当番など)や委員会活動などに熱心に取り組んでいる。	97.2%
8	自分は、部活動に一生懸命取り組んでいる。	95.9%
9	学校の施設・設備は充実している。	93.0%

Ⅱ	保 護 者	今年度
1	子どもは、仲の良い友達がいて、楽しく学校生活を送っている。	87.5%
2	学校は、いじめのない集団づくりに取り組んでいる。	76.1%
3	子どもは、部活動に意欲的に取り組んでいる。	85.3%
4	学校は、思いやり、生命の大切さ、そして社会のルールなど心の教育を大切にしている。	87.7%
5	親として、子どもの学校生活に関心を持ち、子どもと会話するように努めている。	97.2%
6	学校は、学園祭や学年行事などにおいて、子どもが力を発揮できるように工夫している。	91.6%
7	学校は、子どもたちの生活や学習にふさわしい環境作りに積極的に取り組んでいる。	83.7%

(1) 楽しい学校

教職員は楽しく充実した学校を目指し、さまざまな取り組みを行っている。感染症予防の観点より、実施に難しい内容も工夫をすることで実施できている。また、生徒の人間関係にも気を配り、よりよい人間関係を築けるように指導を行っている。生徒も 95.6%が楽しいと言っている。この数字は昨年との回答と比べ、4ポイントほど上がっている。これはコロナ禍の中で中止されてきた行事等が少しではあるが再開されてきたことや学校生活の中に楽しさや充実感が出てきていると考えられる。職員の診断調査記述では、本校の良い所は「先生方がまとまっていて良い雰囲気」だと答えている教職員がとても多い。生徒が楽しく安定して過ごせるのは、職員がチームとして機能し、チーム山北として連携協力体制を大切にしているところにもあるのではないかと思う。

保護者の「子どもは学校生活を楽しく送っている」の質問には 87.5%と比較的良好な数値であった。昨年まで

数値は毎年下がっていたが、今年度は2ポイントほど上がった。これも感染症の影響により行事などが中止・縮小される中でも、教職員が工夫を凝らし、行事等の実施に向け取り組んできたことが認められたのではないかと考えられる。

また、回答した生徒の中で、全体で約5%の生徒が「楽しくない」「あまり楽しくない」と感じている。この生徒たちの心にどう寄り添っていくか、悩みや不安に寄り添えるかが課題だと考える。「楽しくない」原因を探り、きめ細かく対応していく必要がある。

(2) 生徒を大切にしたい教育(教育相談体制)

生徒の学校生活は、全般的に落ち着いており、学習や諸活動にしっかりと取り組んでいる。規範意識も高く、ほとんどの生徒が学校のルールを守って生活できている。担任は日々、生徒の生活ノートのチェックを通し、生徒の心の変化に気づき、カウンセリングマインドに基づく教育相談を行っている。生徒の「必要があるとき相談にのってくれる」(97.6% 昨年度93.1%)と数値は上がっている。これは日頃より教職員が生徒一人一人を丁寧に観察し、積極的に生徒へ声かけなどを行っている成果だと思う。これからも教職員は生徒の気持ちにより添いながら、保護者の意見に耳を傾け、教育相談活動の充実に努めていきたい。

(3) いじめのない学校

学校生活に対する意欲や学級の満足度を調べる「QUアンケート」また、年3回実施している「いじめアンケート」から、いじめの早期発見に努め、アンケート結果を基にした対策も行っている。また担任と生徒が学校生活について話ができる教育相談週間も有効に活用されている。

生徒の98.1%(昨年度95.8%)の数値は、教員がいじめのない集団づくりに取り組んでいることが理解されていることの証であるが、保護者の76.1%(昨年度81.0%)の数値は、前回は下回り、学校のいじめへの取り組みが理解されていない感もいめない。教職員がもう一度いじめは絶対ゆるさない姿勢を生徒や保護者への周知をしていくとともに、いじめを認知した時の迅速な対応、保護者への丁寧な説明が重要であると考ええる。

(4) 部活動について

生徒は95.9%、保護者は85.3%が、「部活動に意欲的に取り組んでいる」という回答をしている。本年度も、コロナ禍の影響下ではあったが、部活動や大会の制限が大幅に緩和され、コロナ禍以前の活動に近い状態に戻りつつある。生徒の記述の中でも、活動ができることへの感謝や大会が実施されることへの喜びの表れがあった。本校の良い点として「部活動がさかんなところ」と記述している意見も多くあった。

教職員、生徒、保護者がともに納得し、充実した活動を行うために、その部が何を目指し、どの程度の活動を行うのか、費用はどの程度必要なのか等、入部の段階で生徒保護者と確認した上で活動を計画していく必要がある。持続可能な部活動の在り方として部活動の地域移行への動きも活発化していく状況ではあるが、これからも部活動のあり方を生徒や保護者へしっかりと説明した上で、保護者の理解と協力を得ながら生徒達の健全な育成のため部活動の充実に進めていきたい。

(5) 学習、生活環境について

教職員は学習生活環境づくりに意識して取り組んでおり、保護者も83.7%と取り組みを認めていただいていると考えられる。生徒の「自分は学級の係(清掃や給食当番など)や委員会活動などに熱心に取り組んでいる」の回答も97.2%と非常に高い数値である。本校の清掃活動では、無言清掃が徹底されていて、意欲的に取り組むことができている。また、生徒会活動の柱にSDGsを数年前から取り入れ、各委員会の活動を通して持続可能な未来の実現に向けて取り組みを行っている。山梨北中の良い点として「学校の環境」に関する意見が多かった。「いつも校舎や校庭がきれいに保たれている」「トイレが常にきれい」。教職員生徒と一緒に、よりよい環境づくりのために今後も取り組みを継続していきたい。環境が生徒をよりよく動かすと考える。

Ⅲ その他

Ⅲ	生 徒	今年度
1	自分は、校訓、学校教育目標や生徒会スローガンを意識して生活している。	90.4%
2	自分から進んで地域の行事に参加している。	85.7%
Ⅲ	保 護 者	今年度
1	学校は、校訓、学校教育目標などを実現しようと努力している。	86.4%
2	学校は、健康増進や交通安全対策などに適切に対応している。	91.3%
3	家庭訪問や懇談会・授業参観など、学校での生活や学習の様子を把握する機会は十分ある。	84.1%
4	積極的にPTA活動に参加している。	62.2%
5	学校は、保護者や子どもの相談にのったり願いに応えようとしている。	83.4%

(1) 学校教育目標

教職員は、学校教育目標の実現のために努力し、教職員の共通理解のもと、協力して学校運営を行っている。この数値が高いのは、限られた条件の中で、リモートなどを駆使し生徒と学校行事を創り上げてきた結果であると考え。

保護者も比較的高い割合(86.4%)で開かれた学校への取り組み認めている。今後も、保護者の協力のもと、教職員と生徒がともに「良い学校をつくろう」という意識を持って生活していけるよう努力していきたい。

(2) 保護者や地域との連携

学校運営にあたり、保護者や地域との連携が必要不可欠である。本年度も感染症予防の観点により、行事が削減・縮小され、会議が中止(書面のみ等)になった。

保護者の「家庭訪問や懇談会・授業参観など学校での生活や学習の様子を把握する機会は十分ある。」の回答は84.1%(昨年度88.0%)と昨年度から若干数値を下げた。また、「積極的にPTA活動に参加している」の回答は、62.2%と低い数値となった。来年度は、この結果を受け止め、会議や授業参観の機会を可能な限り設け、教育目標の共通理解と学校教育目標実現に向けて活動していきたい。また、通信等、良い評価をいただいた一方で、PTA活動に負担を感じている保護者もいることから、工夫と改善を進めていく必要がある。

(3) 健康・安全教育

コロナ禍の影響で、今まで以上に生徒の安全・安心を確保する意識が高まった。また、生徒も、命の大切さを自覚し、手洗いや三密回避などの行動をとることができた。

教職員は、生徒の健康増進や安全について適切に対応、指導していかなければならないと考えている。また、危険等発生時における職員の役割や日頃より危機管理における意識を持ち、迅速かつ適切な対応を取れる組織体制づくりにより、学校管理下における生徒の安心安全を実現することが重要である。

また防災教育を充実させ、教職員への研修や生徒への訓練等により非常災害時等における、生徒の意識を高めさせ、自分の身は自分で守る意識を持たせるとともに、自らの判断と行動で健康安全を守らせていきたい。

以上、学校評価の集計結果について、お伝えいたしました。

3年生はいよいよ卒業です

3月となりました。3年生は、いよいよ卒業です。3年間、翼を鍛えた学び舎ともお別れです。9日の卒業式では、3年生の立派な巣立ちゆく姿がみられることでしょう。保護者の皆様と共にお祝いしたいと思います。また、保護者の皆様、これまでの教育活動に関しまして、ご理解・ご協力をいただきありがとうございました。